

ポスター発表 2

**学齢期に来日した青年の複言語意識とキャリア形成
—複言語で育った青年が語るライフストーリーをもとに—**

風張沙樹 (岩手大学大学院生)

研究の目的

本研究の目的は以下の2点である。

- ① 学齢期に来日した青年がどのように日本語を習得し、母語や母文化を保持しながら JSL 生徒としてのアイデンティティを形成したのかを明らかにすること。
- ② ①で明らかにした過程は、彼らのキャリア形成にどのような影響を与えているのかを明らかにすること。

研究の価値・意義

本研究は、どのように教えるかという「指導者主観」ではなく、学習者が来日時から現在までを振り返る語りから日本語を学ぶ子どもを「学習者理解」の視点で捉えることに意義があると考えます。また、キャリア形成の重要な時期にも関わらず「日本語が話せるから大丈夫」と見過ごされがちな段階の生徒への支援体制構築の一助にもなるだろう。

研究方法

キャリア形成は、周囲との関わり、来日後の日本語学習・母語使用経験といったアイデンティティに影響を受けるものである。それらを鑑み、学齢期(小～高校)を日本で過ごした JSL 青年を対象に自らの経験を振り返るライフストーリーインタビューを行う。対象者に研究の趣旨を説明し、インタビューデータを収集する。データは、青年自身のことばの使用や周囲との関係の中で達成感や自己肯定感など得られた出来事を時系列に分類し、それらがキャリア形成にどのように影響を与えているか分析する。

結果と考察

複言語意識やアイデンティティを支える、「ことば(母語・日本語)を使用する達成感」、「ことばを通して築いた他者との関係」、「日本で存在を周囲に認められた成就感のある経験」がキャリア形成に要因を与えていることが分かった。ライフコースという長期的視点で捉え、日本語教育とキャリア教育と関連した教材、自身のことばや文化を確かめられる教育活動など、ことばの学習の意味を実感し生き方を考えるための支援が求められる。